

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	政治・経済	
科目基礎情報							
科目番号	0004			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	政治・経済（佐々木毅他著 東京書籍刊） / 「政治・経済資料2016」（とうほう）						
担当教員	薄葉 祐子						
到達目標							
“政治”については、日本国憲法を基礎に政党や自治体の諸相を、“経済”に関しては、資本主義体制下の産業構造等の特質を、それぞれ理解できる。また、これを前提として、現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を認識することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	日本における政党や自治体の諸相を説明できる			日本における政党や自治体の諸相を理解する		日本における政党や自治体の諸相が理解できない	
評価項目2	資本主義体制下の産業構造等の特質を説明できる			資本主義体制下の産業構造等の特質を理解する		資本主義体制下の産業構造等の特質を理解できない	
評価項目3	現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を説明できる			現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を理解する		現代日本社会における政治・経済システムの諸問題を理解できない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代日本における政治・経済の特性を概説。						
授業の進め方・方法	座学・講義形式。担当教員が時事の問題や話題を取り上げながら、背景にある法律・制度・システムについて、黒板に要点をまとめながら説明する。						
注意点	少なくとも板書事項は記録しておき、各自で授業内容を再整理できるようつとめる。 総合評価は、定期試験70%（前期中間・前期末・後期中間各15%、学年末試験25%）、課題・レポート等の提出物20%、授業の出席状況や態度10%の割合で行う。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1-1-①民主政治の成立		民主政治の基本原理について、その成り立ちを歴史的な観点から理解する。		
		2週	1-1-②法の支配 1-1-③基本的人権の確立		法の種類、機能について理解する。人権の意義と歴史的経緯および人権の国際化の現状について理解する。		
		3週	1-1-④現在の民主政治 1-1-⑤世界のおもな政治体制		議院内閣制と大統領制の形態について理解する。		
		4週	1-2-①日本国憲法の制定と基本原理		日本国憲法の成立過程と三大基本原理について歴史的な経緯を踏まえながら理解する。		
		5週	1-2-②基本的人権の保障		日本国憲法が保障する基本的人権について理解する。		
		6週	1-2-③平和主義		日本国憲法の根本理念である平和主義について理解する。		
		7週	1-3-①国会と立法		国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解する。		
		8週	1-3-②内閣と行政 1-3-③裁判所と司法(1)		内閣の機能や内閣総理大臣の権限を理解する。		
	2ndQ	9週	1-3-③裁判所と司法(2) 1-3-④地方自治		司法のあり方について理解する。地方自治の意義とあり方、国と地方との関係を理解する。		
		10週	1-4-①戦後政治と政党 1-4-②選挙と政治意識		民主政治における政党や利益集団の意義と役割、ならびに選挙の意義を理解する。		
		11週	1-4-③世論と政治参加 1-5-①国際関係と国際法		マスメディアの現状とあり方、ならびに国際社会の成立過程と主権国家と国際法の関係について理解する。		
		12週	1-5-②国際社会の組織化と変容		国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解する。		
		13週	1-5-③国際政治の動向 1-5-④国際政治の課題(1)		第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について理解する。		
		14週	1-5-④国際政治の課題(2) 1-5-⑤地球環境と自然・エネルギー問題		地球環境問題と資源・エネルギー問題についてその現状を理解する。		
		15週	1-5-⑥地球市民社会における日本の役割		戦後の日本外交や安全保障の動きを理解する。		
		16週					
後期	3rdQ	1週	2-1-①資本主義体制の成立と発展		資本主義経済成立の歴史的経緯、および特徴や変遷について理解する。		
		2週	2-1-②現代経済の特質 2-2-①経済主体と経済の循環		グローバル化や情報化が進む今日の資本主義経済の特徴について理解する。		
		3週	2-2-②生産のしくみと企業 2-2-③市場経済の機能と限界(1)		資本主義経済を支える企業活動について理解する。		
		4週	2-2-③市場経済の機能と限界(2) 2-2-④国民所得と経済成長		資本主義経済の核心をなしている市場の働き、および市場の失敗について理解する。国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解する。		
		5週	2-2-⑤金融のしくみと機能		金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解する。		
		6週	2-2-⑥財政のしくみと機能		租税の意義や財政の基本的な役割を理解する。		

		7週	2-3-①経済再建から高度成長へ 2-3-②オイル・ショック後の日本経済	第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景、オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解する。
		8週	2-3-③日本経済の現状 2-4-①公害と環境保全	「構造改革」の特徴と影響、世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について理解する。
	4thQ	9週	2-4-②消費者問題 2-4-③農業・食料問題	公害問題と経済発展の関係性、消費者問題、農業・食料問題の現状を理解する。
		10週	2-4-④中小企業の現状と課題	中小企業の地位と役割について学び、日本の中小企業の現状と課題について理解する。
		11週	2-4-⑤雇用と労働問題	労働問題と労働運動の歴史的経緯、雇用環境の変化と現代の労働問題について理解する。
		12週	2-4-⑥社会保障と福祉	社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について理解する。
		13週	2-5-①貿易と国際収支	貿易の意義、自由貿易の利点、国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを理解する。
		14週	2-5-②経済対立と国際協調 2-5-③発展途上国の経済	保護貿易主義の台頭と国際協調の動き、発展途上国の経済発展の状況について理解する。
		15週	2-5-④地域主義の動き 2-5-⑤グローバル化する世界経済	地域的経済統合の動き、グローバル化の進展にともなうさまざまな経済環境の変化について理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3	
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	
			公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	前5
				民主政治の基本的原理、日本国憲法の成り立ちやその特性について理解できる。	3	
				資本主義経済の特質や財政・金融などの機能、経済面での政府の役割について理解できる。	3	
				現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合

	試験	課題・レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	50	10	0	0	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	20	10	0	10	0	0	40